

貧困 2

1995年1月17日の阪神淡路大震災被災地の惨状、火による被害が大きかった木造長屋密集地の神戸市長田区では漫画家の知人も被災した。

彼の家のすぐ近くまで火の手が迫ったが消防車は来ない、水道管が破裂して水は出ないという切羽詰まったなか、児童公園の砂場の砂をバケツリレーして壁や屋根にかけ続け、かろうじて迫る炎と火の粉からまぬがれたと聞いた。

お見舞いの帰り道、写真を撮りながら長田区から尼崎方面に向けて歩いた。三ノ宮ではアーケードのレンガの歩道があちこち割れ、段差を生じ波打って揺れのすこさを想像させた。

一階部分が完全につぶれ二階の屋根がその上にのっかっている唖然とする瓦礫（一階にいた人は助かったのか？）にはシャッターを押す指が震えた。

その頃から、近隣（大阪市内）の公園の植え込みにホームレスのブルーシートテントが増え始めた。

漫画家の僕は毎日目にする青いテント群に明日の自分がダブって見え、将来に言いようのない不安を感じるようになった。

「なぜホームレスに？本人の責任か社会のせいかな…」彼らの生の声を直接聞いてみたいと思った。ぐうぜん東京台東区でNPO法人が運営するホームレス支援活動に参加させてもらう機会を得た。

活動内容は隅田川沿いのテラスでテント生活をしている彼らに声かけをし、支援グループとの信頼関係を育（はぐく）んでもらい、それぞれの社会復帰の方法と一緒に探していこうというもの。

NPO法人の“敬老室”は、シャワー設備やテレビ・将棋・囲碁を楽しめる畳スペースもある。

日曜日にはアウトリーチといって、我々ボランティアが数名ずつグループになって手作りのおにぎりを手土産にテントを訪問、余計な言葉をはさまずひたすら彼らの話

に耳を傾け、テントの住人との信頼関係を深め、気が向いたらぜひ“敬老室”に来るよう勧め、続く彼らへの自



● 隅田川テラスに並ぶホームレスの青いテントの群れ

立支援がスムーズに運ぶようその下地作りを目指していました。

（次号に続く）



● アウトリーチ活動、ひたすら彼らの話に耳を傾ける

東成区の昭和



(32) 給食



東成区の昭和



(33) 給食





(34) 給食



(35) 給食



やぶにらみ日記 (441)
東成区の昭和



(38) 給食



やぶにらみ日記 (442)
東成区の昭和



(39) 給食



東成区の昭和



(40) 給食



東成区の昭和



(41) 給食

